

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年11月22日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100781
法人名	社会福祉法人 翔風会
事業所名	グループホーム つわぶき
所在地	鹿児島県鹿児島市喜入町6987番地 (電話) 099-202-0080
自己評価作成日	令和4年10月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pccpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和4年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・昼夜問わず入居者の様子観察健康を守っていること。ご家族、職員も安心して生活が出来る。敷地内にある母体医療機関、新たに改築され専門Drがおられます、早期発見診断ができます、法人関連施設(居宅介護支援事業所、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、特別地域密着型養護老人ホームがある、隣にグループホームはまゆう、日常的に協力体制が構築されています。グループレベルアップの勉強会や研修を行っている。近隣には市役所、消防署、郵便局、交番、小中学校、駅、銀行、商店街などがあり、利便性に富んでいる。通常ならば春は花見、小学校運動会、夏は六月灯、夏祭り、地域のイベントに参加している。(コロナ禍、外出外泊などが出来ていません)。毎日免疫力アップのための体操、嚥下体操、誕生日会、イベントに理事長のマジックショウの披露に入居者も楽しみの時間となっている。地域医療、介護事業所や認知症の方をサポートする上で、講演もされています。現在はコロナウイルス感染予防対策をしっかり行い、コロナウイルス感染しない、感染者を出さないように努力しております、家族面会は検温、マスク着用の上窓越しに行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・理念は、毎朝の職員での唱和で心を高め、気を引き締めて仕事に励むことができ、利用者に寄り添ったケアに取り組んでいる。
 ・当事業所は、周りに官公庁・銀行・郵便局・交番・消防署・小中学校・商店街等があり、大変利便性がよい。
 ・敷地内には関連施設があり、母体の医療機関もあり、緊急時の連絡体制も24時間対応ができています。
 ・誕生会やイベントに理事長自ら参加して皆を喜ばせ、利用者との交流を大切にしている。
 ・コロナ感染予防についても積極的に取り組みを行い、感染しない事、感染者を出さない事等を念頭に、予防対策に努めている。
 ・管理者は職員の意向に耳を傾け個別に相談する機会を設けている。職員間の関係性も良く、施設の開設当初からの職員も多い。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	パンフレット、つわぶき便り、運営推進会議、職員会議資料等に理念を載せている、朝礼後や職員会議の前に理念の唱和し、理念を深めている。	理念は事業所のリビング・トイレ・廊下等に掲示し、便りにも掲載している。トイレの理念は説明付きである。毎日唱和し、職員会議で理念についての確認をしている。職員一人ひとりが自己を振り返り、理念を通して支援につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方に呼びかけ、運営推進会議、イベント、誕生日会に参加に参加いただいている、自治会の総会・地域清掃に参加、顔なじみの方と話をする機会を作っている。	自治会に加入し定期的に地域の清掃に参加している。町内の行事等はほとんど中止になっている。中庭の散歩時に住民と挨拶をしている。地域の方々からの花や野菜の差し入れがある。道路を隔てた高台に小学校があるがコロナ禍で以前のような交流は自粛している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の行事に参加し、悩みや相談事を聞いている、また、ボランティアの受け入れをし、交流して頂いている。現在コロナ禍で、ウイルス感染防止しながら受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>隣接のグループホームと合同で定期的開催している、入居者様の現状報告、意見交換検討し質の向上に繋げている。避難援助をお願いし地域の情報交換の場となっている。現在はコロナ禍で中止している。</p>	<p>運営推進会議は、コロナ禍の為施設関係者のみで開催している。利用者や事業所の状況・職員研修・ヒヤリハット・外部評価結果報告等を協議し、書面で他の委員へは報告し、後日に意見等は電話で聞き取り、支援に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>長寿安心相談センター主催の会議、研修に参加したり、運営推進会議など協力関係作り気軽に相談、連絡できるようにしている。</p>	<p>事業所から徒歩で行ける距離に行政や地域包括支援センターがある。介護保険の更新申請や相談に窓口に向いて協力関係を築いている。行政の研修は、リモートで参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>外出したい入居様の訴えに対し、職員間の声掛け、見守りを行っている、職員会議、カンファレンス時に身体拘束について勉強会を行い意見交換、検討している。</p>	<p>法人全体の身体拘束廃止委員会では3ヶ月毎に開催している。事業所でも毎月テーマを決め勉強会を実施している。言葉についても気づいた時に管理者が注意したり、職員会議の時に研修している。玄関の施錠はしていない。外出願望時は見守りを強化し、外出希望者は散歩に同行している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>定期的に、研修勉強会を開催し検討会を行い、虐待防止に努めている。また、言葉遣いについてはその都度注意している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度について研修に参加し、勉強会を開いて学ぶ機会をもっている。それを活用できるように支援している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居前にホーム内を案内し、説明、同意書をいただいている。定期的に主治医、家族、管理者、担当者を交え意見や問題点を話し合い改善に努めている。改定等ある時には、その都度文書を配布もしている</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>常日頃から入居者、家族の要望、相談ごとを受け止めている。すぐに解決できることはその日のうちに、他に職員会議で話し合い検討している。現在コロナ禍で電話、メールで対応している。</p>	<p>毎日の支援時に利用者一人ひとりに気を配り、語り掛けをしている。表情やしぐさから判断し支援に活かしている。家族からは面会時に屋外で話をしたり、電話やメールを利用して要望を聞いて、運営に活かしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	連絡ノート、月1回の職員会議、カンファレンス時はもとより、常日頃から意見を聞いている。理事長、施設長、事務長へも報告し意見を頂いている。現在コロナ禍で食事会での意見交換は出来ていない。	職員会議は毎月開催し勉強会も含めて2時間の予定で実施している。職員のレター棚を設置し、意見・要望を投函している。早急に解決や改善を図っている。必要時は個人面談も実施している。職員間は何でも話せる関係にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	一人ひとりがいきいきと自信をもって働けるよう勤務時間の調整や職員の交流の場を設けて、気配りに心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的にホーム内研修、外部研修に積極的に参加し質の向上に努め、その内容は他の職員に伝える機会を作っている。現在コロナ禍でリモート研修に参加し、フィードバックしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿児島、谷山地区などの勉強会に参加し意見交換、情報収集に努めている。また 事業所内での勉強会、意見交換も行っている。現在コロナ禍で出来ない状態である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人、家族と面談し生活習慣や環境を把握、不安に思っている事、要望等に耳を傾けることで安心して生活できるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いままでの介護経過を傾聴しその労い、不安、要望を伺い安心して頂ける声掛けを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主治医、本人、家族、前サービス担当者を交え、問題となる事柄等がないか検討をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居様を家族一員として介護を支え、入居様が出来ることは手伝って頂き、共に助け合っている。また入居様から学ぶ機会をいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在コロナ禍でリビング窓越しの面会が可能となり笑顔が見られる。遠方の家族、知人の面会も出来る、電話、メール、便り、オンラインしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩、買い物、墓参り、地域の行事に参加することで顔馴染み、知人の方に声掛けをいただいている。現在コロナ禍で窓越しにて会話を楽しんでいる。	コロナ禍であり、外出は自粛している。家族が通院同行時にドライブしている。ヘヤスタイルや洋服等のおしゃれは職員が相談に乗り、散歩は中庭に出て気分転換している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションの取れる方は席を隣にし、コミュニケーションが取れない方は職員が介入しお互いの関りを成立するよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られた方には時々面会に行ったり、気軽に声掛け相談に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとり職員担当を決め、思いや希望を聞く時間を作り、連絡ノートや会議で検討している。表情や、言葉、行動で思いを把握したり家族、知人からも情報を得ている。	夜勤時やゆっくりとした時間の時に思いや希望を聞いている。聞きとった事はノートに記録して職員会議の中で検討している。困難な場合は、家族からも意見を聞き、本人の思いに添うように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集や生活の中でことばを傾聴し、これまでの暮らしを把握している。家族、親戚、知人、近隣者からも情報を得る機会を作っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活の中で表情、機嫌、バイタル、食事摂取量、排泄等を確認観察しながら入居様の状態把握に努め、1日を本人らしく過ごされるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前の生活歴などを家族から聞き取り、関係者からの情報を参考に介護計画を作成している。職員は日々の生活状況を観察しカンファレンスでモニタリングを実施し目標やサービス内容等確認している。	本人・家族から希望を聞き、主治医から意見を得て担当職員で話し合い、介護計画を作成している。生活状況を確認して毎月カンファレンスをしている。6ヶ月毎にモニタリングを実施し見直しを行い、変更時も見直しをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やチェック表を記録することで、日々の様子や体調を把握している。カンファレンスで職員間の情報を共有、介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、要望に合わせてできる限り対応している。職員での対応が困難な場合は施設長、理事長に相談し対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、お茶を楽しんでいる。現在コロナ禍で出来ない状態であるがそれに代わるイベントを職員で盛り上げ楽しく過ごせる時間を作っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	コロナ禍で他の病院受診できない状態ではあるが、家族要望者には感染予防をし受診している。受診後は居室で過ごしていただき、その期間はいつもの以上に精神面の支援を行っている。	利用者及び家族の希望するかかりつけ医になっている。内科医・歯科医は、往診診療体制で対応している。眼科・精神科・皮膚科等の他科受診があり、結果は家族へ電話で報告している。歯科の訪問診療もある。情報提供や服薬管理を徹底している。24時間医療連携体制で管理している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師はいない、准看護師や主治医への報告を行っている。特変時は早めの報告や隣接のクリニックから指示をもらい協力も頂いている。介護職員の気づきを早めに報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の主治医、ソーシャルワーカーと連絡取ったり、家族へ連絡し情報収集を行っている。退院前には主治医、家族を交えて退院後の対応や職員、入居者様の不安等について話し検討している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に終末期について説明、同意を頂いているが、定期的に話し合っている。急変時には本人、家族、主治医、職員間で担当者会議を行い、穏やかに終末が迎えられるよう支援している。	入居時に重度化や終末期に向けた説明を利用者及び家族に行い同意を得ている。マニュアルを基に重度化の段階ごとに家族へ主治医から説明を行い話し合いの場を設けている。看取りの経験がある。家族の面会やケアの場面に立ちあうことも自由になっている。職員も安心できるチームケアをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に安全対策委員会に参加し、AED、急変時や危険予知について勉強会を行っている。現在コロナ禍でインシデント・アクシデント書類を提出し対応方法などを検討し職員間で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>特老との合同訓練を行ったり、年に3回訓練を実施している。夜間想定防火訓練、地震災害や津波災害訓練、消防署の方に参加して頂き行っている。現在コロナ禍で自主訓練、施設合同訓練実施している。</p>	<p>消防署立ち合いの訓練は、コロナ禍のため中止になっている。年3回、昼夜を想定して自主訓練で避難訓練中心に実施している。車いすや歩行器使用者が多く、避難場所は玄関先、水害の場合は施設内の2階になっている。実施する場合は民生委員、町内会長、地域包括支援センター等へ連絡している。備蓄は水・米・レトルト食品・缶詰等を約3日分準備している。コンロや介護備品を備蓄している。今回は、民生委員・交番勤務の警察官に参加してもらった。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>言葉使いや介護方法など、その方のプライバシーを保護し、入居者や家族の個人情報に触れることのないようにしている。ホーム外の写真は同意を貰っている。</p>	<p>入浴やトイレ使用時等に羞恥心やプライバシーに配慮して支援している。入室時のノックや声かけ、申し送りは小さな声や居室番号等で行い、個人名を出さないようにしている。その日に着る服等を選択できるように声掛けしている。職員間で利用者と何でも言える関係づくりができるように研修をしている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人の表情や行動を把握し、本人ペースに合わせながら対応している。また職員が援助しながら出来るだけ本人に決めて頂いている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの体調、行動を把握し、食事や行動等調整している。また入居者様のペースに合わせ支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>本人が服を選べるように工夫したり、鏡を見ながら髪をといたり、整えたり、髭を剃ったりして頂けるよう声掛け支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>近隣、知人より頂いた野菜等皮むき、感謝の気持ちを伝えながらお願いしている。コロナ禍で会話を楽しみながら出来ない状況である。</p>	<p>食事の昼夜食分を外食産業に依頼し朝食は施設で準備している。食事形態は職員の方で行っている。誕生日のケーキは施設内で手作りしている。座席はほぼ決まっている。食事の時間は音楽を流し自助具を使い自分のペースで食している。個々の様子を見ながら介助している。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一人ひとり食事摂取量、水分摂取量を分けて記録、必要に応じ主治医に報告を行っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>日頃より口腔ケアの大切さを伝え、毎日食後のうがい、歯磨きを行い、仕上げを援助している、定期的に歯科検診、指示を頂いている。週1回歯科衛生士により口腔ケアしている方もおられる。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄の訴える方は即対応している、出来ない方は排泄記録を確認しトイレ誘導、おむつ確認する。夜間帯PW使用する方もおられる。おむつ排泄をしないようにトイレ排泄へ自立排泄への支援をしている。</p>	<p>昼間はトイレでの排泄を心がけ、尿や便意の無い利用者には排泄記録から把握し、声掛け誘導している。トイレ誘導により、失禁回数が減り、パット交換の回数が減っている。夜間は安全のためにポータブルトイレを使用している利用者もいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取量等、運動、排便間隔を確認し、個々に応じて対応している。排便を促す食べ物の工夫している、排便困難時は主治医に相談している。現在コロナ禍で散歩による運動ができていない。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一人一人の希望を聞きながらタイミングに合わせて入浴を行っている。入浴拒否の方は職員を変えたり、笑いを入れながら誘導している。	入浴は週2回午後を基本としている。利用者や家族の希望で曜日や時間を変更するときもある。機械浴もある。寝たきりの方は介助入浴車椅子でシャワー浴やかけ湯を2人係りでやっている。入浴拒否の場合は介護経験を活かし、職員を変えたり時間をずらして声かけをして気持ちよく入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の気持ちを聞きながら時間の状態に応じ対応し、安心して眠れるように声掛け支援している。また、体位、衣類寝具調整、照明等配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用量などについてカンファレンス時に説明している。臨時薬はその都度申し送り伝え、誤薬しないようにダブルチェックしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意なこと出来ることを把握し職員と一緒にいき、感謝の言葉を伝えている。気分転換の支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	入居者様の希望に努め、ご家族の協力を得て、買い物、実家へ、外食、散歩等を実施している。現在コロナ禍でできない。家族様に買い物等お願いしている。	中庭の散歩で日光浴や外気浴をして気分転換している。医療機関受診の帰りにドライブしている。利用者は職員や訪問医師との接触の機会を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方には持つて頂き、お金を持っていることで安心できる方は家族の承諾の上持つておられる。また入居様の希望を伺い、欲しいもの等の買い物支援をし、お金の管理、家族への収支報告を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族思いが強い方には電話で声を聞いてもらっている。携帯電話使用できる方は、家族と自由に連絡している。電話使用できない方もテレビ電話を利用して顔を見ながら話している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの前、後ろの畑に食物や花を植え、鏡の前に花を飾り季節を感じていただいている。季節毎の作品を作りをして掲示板やローカの壁に飾る。除湿器、空気清浄機を置き配慮している、換気、消毒行い、入居様が居心地よく過ごしていただけるよう援助している。	リビングは窓が大きくて明るく日差しも入る。空気洗浄機や加湿器等があり、時間ごとの空気の入れ替えを実施している。不快な臭いもなく落ち着いた生活を過ごしている。座席は決めている。壁には季節ごとに職員と利用者で作った作品が掲示し、季節の花を飾って、季節を感じてもらっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話のできる方は同じテーブルで会話を楽しんでいただいたり、一緒にみんなでテレビを見たり、お茶を飲んだりしている。パズル絵作成を楽しみむなど、本人の思いを重視しながら声掛けしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用してた品物、家財電気製品など持ち込んで頂き、安心してゆったりと過ごせるように支援している。	ベッドやエアコン等の設置があり、寝具やタンス・仏壇・テレビ・家族の写真等を飾り入所前に慣れ親しんで使用していた物を持ち込んでいる。季節に応じた衣類の入れ替えを家族へお願いして居心地よく過ごせる様になっている。携帯電話等持ち込んだりパズルを居室で楽しんでいる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の残存機能を把握し、低下させることのないよう、入居様の出来ることを生かし、出来るだけ自立した生活が送れるよう職員が検討し工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらい、コロナ禍外出が出来ていない
			3 利用者の1/3くらい
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない